

QOL

No.26

QOL サポーター 新潟

Quality Of Life



7月、8月、9月に「オープンキャンパス2011」が開催されました。県内外から約3,500名の方々にご来場いただき、大変賑やかなイベントとなりました。

INDEX

- 対談企画
- 暮らしサイエンス
 - ・資格の垣根を超えた「臨床技術者」の育成と将来
- 研究推進機構プロジェクト研究センター
 - ・筋骨格系機能プロジェクト研究センター
 - ・アスリートサポートプロジェクトセンター
- 豊栄駅前サテライトキャンパス
- 基礎ゼミ 学生・教員交流会
 - 理学療法学科 / 作業療法学科 / 言語聴覚学科
 - 義肢装具自立支援学科 / 臨床技術学科 / 健康栄養学科
 - 健康スポーツ学科 / 看護学科 / 社会福祉学科
 - 医療情報管理学科
- 部活動「強化クラブ」
 - サッカー部 / 男子バスケットボール部
 - 女子バスケットボール部 / 水泳部 / 陸上競技部
- CAMPUS NEWS
- 第11回伍桃祭(大学祭)のご案内
- 大学院 各種イベントのご案内



新潟医療福祉大学

2011年9月10日発行
新潟医療福祉大学広報委員会編集



新潟医療福祉大学
キャリア開発室長
中町 礼子



新潟医療福祉大学 就職センター長
理学療法学科 准教授
佐藤 成登志

時代のニーズに応える、「優れたQOLサポーター」を育成している本学。大学全体の就職内定率は、99.3%（平成23年度5月31日現在）を実現！また読売新聞社より平成23年7月29日に発行された「就職に強い大学2012」では就職率ランキングで、堂々の全国第4位（就職数300人以上の大学）にランキングされるなど、就職に強い大学として、高い注目を集めています。

全国トップクラス! 99.3%の就職実績の要因とは?

中町 本学における様々な就職サポートや支援体制はもちろん大切ですが、それ以上に、キャリア開発室や教員が学生一人ひとりに細かく目を配っていることが、最大の要因と言えるかも知れません。

専門職に就きたい学生もいれば、一般企業に就きたい学生もいる。学生一人ひとりは、考えていることがそれぞれ違うので、その学生の本音をいかに汲んであげられるかが大切だと考えています。

その為には、就職センター運営委員会を中心とした教職員の連携が重要です。

佐藤 学生の情報や、教員の対応方法などを共有することは非常に大切ですね。

学生の中で就職活動がスムーズに進む学生もいれば、残念ながらそうでない学生もいる。特に、就職活動が思うようにいかなくて精神的にダメージを受けている学生には細やかな配慮を行い、本人だけでなく教職員が密に連携してサポートを行っています。

学生への面倒見の良さ、その細かな積み重ねが全国トップクラスの就職率に繋がっているのではないのでしょうか。

中町 その他に「就職ガイダンス」や「就職試験対策講座（筆記試験用・面接試験用等）」、筆記試験をWEBで行う「E-テスト」等を行っています。

佐藤 また、「一般企業求人説明会」「医療福祉施設求人説明会」等も開催しています。特に「医療福祉施設求人説明会」は、昨年を上回る73施設にご参加頂き、実際にそのうちの6割くらいが就職に結びつく等、学生と企業とのニーズのマッチングが高い求人説明会となっています。

学生の質の変化

中町 本学の開学時から比べてみると、学生のタイプも変わってきたなと思いますね。

一期生や二期生等は、自分の理想とする将来の姿（ビジョン）があって、その姿に近づく為の自分なりの考え方を、周りの友達や教職員に伝えていました。それに対して今は、答えを教職員に求めてくる学生が多くなってきたと感じています。

佐藤 そうですね。ただ、今の学生は、将来像を考えていない訳では決してなく、自分を上手に表現することが苦手な学生が増えていると思います。

中町 良い考えを持っていても、履歴書になると稚拙な文章になってしまう学生が見受けられるので、学生の意見や考えを引き出す履歴書の書き方や面接の受け方等、細かなところまでアドバイスをしています。

佐藤 その履歴書ですが、自分の趣味や特技などに何を書いて良いかわからない学生も増えていると感じています。

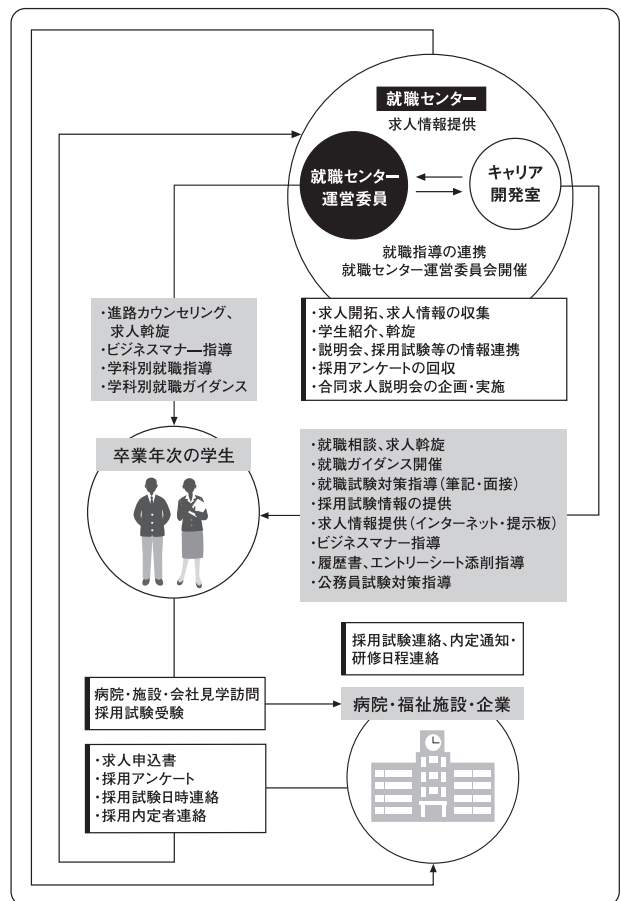
中町 自己分析が甘く、自分に厳しいのだと思います。自分の得意とするアピールポイントは、本来誰もが持っているはずなのに、学生に自己分析させると短所だけをあげてしまう。ですから、学生一人ひとりと真剣に向き合って、学生の長所を引き出すように心がけています。

全国トップクラス! 就職内定率99.3%を達成!

その極意を就職サポートの

スペシャリストが語る!!

就職支援体制



今後の展望・課題

中町 現時点では、医療情報管理学科は1～2年生しかいませんし、臨床技術学科は1年生しかいません。それらの学科学生が今後入学・進級し、学生数が増えていきますので、サポート体制を更に充実させる必要があります。

佐藤 それらの学生数に見合ったサポートスタッフの拡充や支援スペースの確保など、ソフト・ハード両面での拡充が大切だと思います。また、卒業生への就職後の更なるフォローも考えていきたいですね。

中町 そうですね。ですが、どれだけ学生数が増えても基本的な考え方は変わりません。今後も、学生一人ひとりを細かく丁寧にサポートし、多様なニーズに応える満足度の高い就職支援を行っていきたいと考えています。

そのようにして本学を巣立った卒業生たちが、社会の求めるQOLサポーターとして、大いに活躍してくれることを切に願っています。



臨床技術学科新設の背景

科学技術の発展に伴い、ますます高度化が進む医療現場では、質の高い医療サービスを提供することが必要となり、医師と共にベッドサイドでの高い専門性を発揮できるスペシャリストの存在が強く求められています。その対策の一つとして、厚生労働省の平成21年3月「規制改革推進のための3ヶ年計画(再改定)」では「医師及び他の医療従事者の供給体制の在り方の検討」において「医師と他の医療従事者の役割分担の推進」の閣議決定がなされました。この決定は、特に専門性を高めた新しい職種(慢性的な疾患・軽度な疾患について医師の指示なしで処置・処方・投薬ができる、いわゆるNurse Practitioner:以下NP)の導入について、各医療機関等の要望や実態を踏まえ、その必要性を含めて検討するものです。

特にチーム医療の中で医師以外の職種が医師から委譲されて医療行為を行えるようにする“Task-shifting”(今まで医師しかできなかったことが、他の職種に委譲することにより、医師だけでなく他の医療従事者でもできるようにする考え方)について積極的に検討され始めています。

臨床工学技士が「検査データ」を理解した上で医療機器の操作を

行うことが、より安全で効果的な治療・手術の提供に繋がります。さらに、臨床検査技師が「複雑な検査機器の仕組み」を理解することで、より正確に検査データを解析し、その結果を提供できます。すなわち、従来の専門性(資格)の垣根を超えた視点を持つことで、より質の高い医療サービスの提供が可能となります。臨床工学技士・臨床検査技師、二つの資格を持つ医療技術者(以下「臨床技術者」という)の人材育成を目指す本学臨床技術学科の新設は、このような背景から実現しました。



臨床技術者(ダブルライセンス取得)を目指す1期生

日本で初めて、学生全員でダブルライセンス受験資格取得を目指す本学科では、所属するいずれの教員も、日頃から「患者様のための新しい臨床技術者」の人材育成に多方面から試行錯誤を重ねています。新しい概念に基づく教育システムであり、様々な教育論的意見もありますが、大人(教育者)が考えるより学生の想いは“雲一つない晴天の空のごとく真っ青”に広がっていました。入学前から「二つの医療資格が簡単に取れる」等と安易に思っておらず、将来は患者様のために「広い業務範囲と多くの知識を持って、医師の良きパートナーとしての医療従事者になりたい」という意欲を持った学生が大多数でした。その為、未来に向けてのモチベーションは高く、既に両資格獲得への意識付けができています。

更に基礎ゼミも終了し、ゼミ総合発表会では短期間での様々な経験をまとめ、「キャンパス探検隊～仲間との絆」、「生駒ゼミですえ～コアラのマーチ・カレーの隠し味調べ」、「炎色反応はじめました」な

ど、ユニークな発表が行われました。学科長の指導の下、ラグビーでたとえられる“one for all, all for one”の名句が示すように、学生の個々の能力・個性を活かしつつ、教員を含めた学科全体の総合力の向上をはかる姿勢の一端を実感することができました。4年後には、学生全員が「優れた臨床技術者」として旅立てるように教員一同、日々人材育成に努力を重ねています。



ピザ・チーズケーキ作成(基礎ゼミ)



カレーの隠し味調べ(基礎ゼミ)

今後のチーム医療と将来展望

これからの医療は、患者様を中心に、様々な専門職がお互い対等に連携し合う「チーム医療」が主流となり、チーム医療無くして、医療現場は成立しません。

前述の経過から、平成22年3月19日厚生労働省より「チーム医療の推進について」(チーム医療推進に関する検討会 報告書)の報告書が示されました。その中で、「看護師以外の医療スタッフ等の役割の拡大」および「医療スタッフ間の連携の推進」において、医療チームの具体例として、感染制御チームには医師・看護師・薬剤師とともに臨床検査技師がいることが望ましいとされました。また、呼吸サポートチーム・周術期管理チームには医師・看護師・理学療法士とともに臨床工学技士が医療チーム構成員とされる等、医療スタッフとしての臨床検査技師、臨床工学技士の役割は大きなものとなっています。

チーム医療の中で、業務が重なり合う部分は非常に多いが、「臨床技術者」の存在で特殊治療面の多くの部分を「包括的指示のもと」業務移譲することにより、医師・看護師が医師・看護師でなければできない業務に専念できることになり、結果として各医療機関で安全で

良質な医療を提供できることが可能になると思われます。

欧米諸国と比較し、日本における医療関係職種は多く存在します。しかし、専門性を重視するあまり、連携機能不全に陥ってしまうことは避けなければなりません。臨床の治療現場において、それぞれの分担業務分野のみならず、更に踏み込み統合的に係わり合うことのできる「臨床技術者」の育成が、今後の医療福祉に貢献できるものと確信しています。

チーム医療の推進について(チーム医療の推進に関する検討会 報告書)

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/03/dl/s0319-9a.pdf>

医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について

<http://www.hourei.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T100506G0010.pdf>



筋骨格系機能 プロジェクト研究センター

研究員：
健康科学部 健康栄養学科
助手 越中 敬一

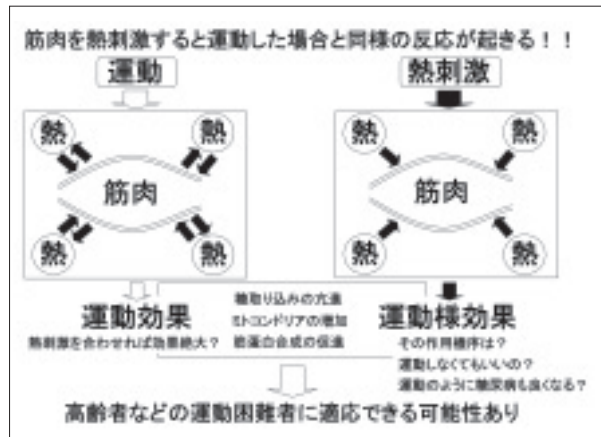
筋肉は体重の40%を占める大きな組織であり、筋肉を支える骨と共に、QOLの維持・向上において重要な役割を担っています。本研究センターでは、糖尿病・サルコペニア・骨粗鬆症等の筋肉・骨の代謝異常が関連した疾病の発症要因を解明し、それらに対する運動療法・食事療法・物理療法の影響を検討しています。実験には動物組織や培養細胞を用い、“なぜ”と感じた疑問に対して様々な生理学・分子生物学的手法を駆使しながら徹底的に“答え”を追求します。

現在、多くの研究課題が進行しており、越中 敬一研究員(健康栄養学科助手)は「筋肉の熱応答」を研究しています。運動をすると筋肉の温度が上昇しますが、筋肉を熱刺激するだけで運動様の細胞応答が得られることを発見しました(図参照)。現在はこの熱応答反応の分子機序を明らかにしています。この熱応答反応を適切に利用すれば、運動による筋肉の細胞適応を増強したり、糖尿病等の生活習慣病予防・改善効果が得られる可能性があります。

本センターは大学院とも連携しています。修士課程の阿部 夏希さん(健康栄養学科卒)はセンターのスタッフも兼任しており、肥満予防に最適な運動処方研究をしています。このように、大学院生として本

センターの研究に関わることも可能です。研究に興味のある方は、是非ご連絡ください。

(連絡先/センター長 川中健太郎:kawanaka@nuhw.ac.jp)



アスリートサポート プロジェクトセンター

センター長：
健康科学部 健康スポーツ学科
教授 石川 知志

【 目的 】

アスリートサポートプロジェクトセンターは、本学強化クラブの選手を対象に、スポーツ傷害のケアや予防に関わる活動を行い、選手の競技力向上をサポートする目的で設立されました。

【 研究テーマ 】

各種目の傷害発生状況の調査から競技の特徴を見つけ、その特徴をもとに、競技に特化した様々な身体機能測定によるメディカルチェックを行い、傷害発生予防につなげることを研究テーマとしています。

【 活動内容 】

スポーツ傷害の応急処置、傷害予防、試合のためのコンディショニング、スポーツ復帰を目指すアスレティックリハビリテーションおよび、トレーニング指導を行っています。新潟リハビリテーション病院と連携して検査や手術を受ける例もあり、スポーツ分野に興味のある学生への教育や実習、研究発表の指導も行っています。

【 活動成果 】

平成21・22年度に合計32名の学生に対しアスレティックリハビリテーションを行い、各強化クラブの優秀な成績を支えてきました。以下の学会発表も行っています。

Hirofumi Jigami, Kazumasa Takahashi, et al: The study on the properties of power output of lower limbs in collegiate swimmers during vertical jumping performance.

Biomechanics and Medicine in Swimming XI(2010 Oslo)
柵木 聖也、石川 知志、高橋 和将、大西 秀明、亀尾 徹、地神 裕史：
体育・スポーツ専攻学生のセルフコンディショニングに対する意識と行動の実態について、第10回新潟医療福祉学会(2010 新潟)

【 今後の展望 】

本学にはトップレベルの運動クラブ、スポーツ分野の教育にも力を入れる理学療法学科、アスレティックトレーナーを育成する健康スポーツ学科が共存しています。新潟リハビリテーション病院との関係も深く、相互の協力した活動を通じ、大学発展に貢献する体制をより一層、整備していきたいと考えています。



豊栄駅前

サテライトキャンパス



創設の経緯・目的

新潟医療福祉大学では、平成22年3月に「包括的な連携のもと、相互に協力し、北区の地域福祉の発展と人材の育成に寄与することを目的」（「新潟市北区と新潟医療福祉大学との連携に関する協定書」第1条）として、新潟市北区と包括連携協定を締結しました。この協定を具体化したものの一つとして、本学のサテライトキャンパスと地域住民の居場所が併設された「北区みんなの茶の間・新潟医療福祉大学豊栄駅前サテライトキャンパス—New 街の駅—」を、平成22年7月3日、JR豊栄駅前に創設しました。

「New 街の駅」を創設した目的は、1) 児童・学生・障がい者・高

齢者等、多世代が集える居場所を開設し、お互いの交流を通して理解を深めるとともに、地域と大学が連携して支え合いによる福祉のまちづくりを進めること、併せて、2) 本学の駅前サテライトキャンパスとして、学生や職員と地域住民が交流を深め、地域から学ぶ力・学びを社会に活かす力を育むことです。さらに、3) 誰もが気軽に立ち寄れる「地域の茶の間」の機能を持たせることにより、地域コミュニティを活性化するとともに、来訪者への案内や情報発信を行い、豊栄駅前通り商店街の活性化にも寄与することが目的です。

現在の利用(活動)状況

開設時間は月曜日から金曜日の10時から16時とし、土曜日・日曜日・祝日は原則閉設していますが、イベントのある日に限り、開設しています。

平成22年7月から平成23年3月までの利用者数は、延べ2,905人となり、本学の利用者数は、学生が207人、教職員が96人で、合計303人でした。地域住民の利用者で最も多いのは高齢者の1,635人、子どもは121人となっています。

活動内容は、本学の社会福祉学科介護福祉コースの学生と教員が、地域住民に向けて、在宅における介護技術の講習会を行っています。2ヵ月に1回、2時間程度開講されており、毎回、



「介護技術講習会」

地域住民・学生、それぞれ10人前後で合わせて20人ほどの参加者がいます。回を重ねるごとに、地域住民と学生の信頼関係も構築され、最近では、休

憩や講習会後の時間において、介護の悩みなどを語り合う場にもなっています。

また、「New 街の駅」の来訪者と学生による自発的な手話の学びの場も生まれました。これまでに10回以上実施され、手話を通じた地域との交流が定例化しており、手話教室の企画を学生自身が行っています。

「New 街の駅」で行われた主なイベントとしては、地場産の野菜を販売し、地域住民の方に豚汁を振舞った「収穫祭」や、地域の方に企画していただいた「学生の歓迎会と笹団子づくり」などがあります。



「学生の歓迎会と笹団子づくり」



「収穫祭」

将来の展望

このように「New 街の駅」は、現在、本学の学生をはじめ、障がい者団体や自治会の方々も参加し、事業を展開しています。将来の展望は、本学の学生と地域住民との交流を通して、学生にとっては様々な学びを得る場として、地域の住民にとっては情報の発信源や生きがいの場として、福祉のまちづくりや地域の活性化にも繋がると期待しています。

また、本学の視点からいえば、学生のサークル活動やボランティア活動の拠点、ゼミ活動での利用等、様々な発展の可能

性を秘めています。

近年の大学教育に求められていることは、従来の専門的な知識や技術の修得はもちろんのこと、実践的で人間味豊かな人材、チームの一員として自分の役割を果たせる人材、常に向上心があり、創造性を持ち合わせた人材などの養成です。「New 街の駅」は、その豊かな人間性を兼ね備えた専門職の養成にも寄与するものと考えています。

基礎ゼミ

学生・教員交流会

基礎ゼミは1年生の全学生を対象に行われる少人数制のゼミです。学生は7~8名程度のグループに分かれ、各グループを教員1名が担当します。ゼミでは、健康で充実した大学生活を送るための基本的な能力を育むことを目的に、大学での学習方法や心構えなどを指導します。またディスカッションを数多く取り入れ、友人づくりやコミュニケーションの場としても活用されます。



作業療法学科

大成功でした!



言語聴覚学科

表彰式後のゼミメンバー



理学療法学科

7月20日 バーベキュー



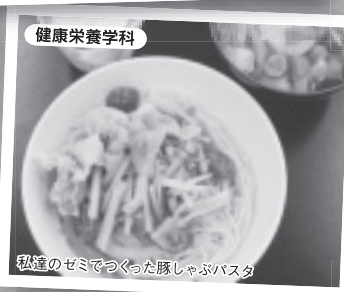
義肢装具自立支援学科

あつという間のバーベキュー大会



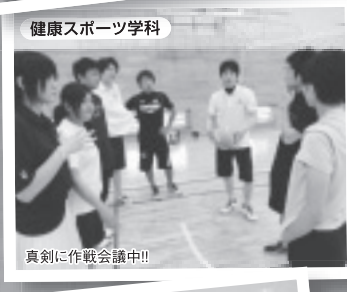
臨床技術学科

親睦が深まり、盛り上がりました



健康栄養学科

私達のゼミでつくった豚しゃぶパスタ



健康スポーツ学科

真剣に作戦会議中!!



看護学科

安全に管理し、調理することができました



社会福祉学科

パン食い競争



医療情報管理学科

絆が深まったドッジボール大会・卓球大会

01 基礎ゼミ活動と今後の目標

理学療法学科 野矢 翔太



私たち菅原ゼミは、自由で自主性があり自分たちの興味のあることをディベートしたり、基礎ゼミの時間に食事に行ったりしました。

また、7月20日に、理学療法学科1年生の全ゼミの先生方と学生でバーベキューを行いました。非常に天候に恵まれ、炭など材料の準備から後片付けまでを助け合いつつ、楽しみながら沢山の同級生と仲を深めることができました。

今後の目標は、勉強と部活動を両立させることです。私

は、強化クラブである水泳部に所属しており、毎日厳しい練習を行っているのですが、勉強と部活動を両立させることは、かなり大変です。さらに2年生の後期からは、実習も始まるので本気で水泳ができるのは2年生までかもしれません。ですが理学療法士を目指しつつ、インカレという大舞台でチームとして戦えることは、本学でしかできないことであり、自分にとって非常に良い経験になると思います。この経験を生かして、将来、泳げる理学療法士、泳げるトレーナーとして活躍する目標を持って、最後までやり遂げたいと思います。

02 みんなのドッジボール大会

作業療法学科 千木崎 太良



私たち作業療法学科では、5月25日に学生・教員交流会として、1年生53名と教員9名の計62名で、ゼミ対抗のドッジボール大会を開催しました。

私はゼミ長会議で交流会の代表になり、スケジュール作成や、交流会の詳細を掲載したプリント作成等の企画・運営準備を行いました。また、他のゼミ長には、様々な係りの仕事を行っていただきました。

当日のドッジボール大会では、円陣を組んで気持ちを盛り上げているチームや、試合に勝って大喜びするチームが

あり、全てのチームが優勝に向けてプレーしていて、非常に盛り上がった1日でした。

私はイベントの企画や運営に携わる経験がなかったので、交流会の代表としてドッジボール大会を行っていくことは不安でしたが、終わってみると全員が積極的にドッジボールに参加し、楽しんでもらったように思えます。親睦を深めている様子は、私自身嬉しく、今回の交流会を企画した甲斐があったと感じています。この交流会の目的は、学生・教員が学科全体で親睦を深めることでしたので、今回の学生・教員交流会は大成功だったと感じています。

03 各ゼミの仲が深まりました

言語聴覚学科 寒河江 沙樹



言語聴覚学科では6月1日に交流会として、「ゼミ対抗ソフトバレーボール大会」が行われました。交流会当日は、他のゼミが試合を応援しているところも見ることができ、勝敗に関係なく盛り上がることができました。

また、各ゼミに別れ、外でお弁当も食べました。少し雨が降っていましたが、その雨も気にならないくらい各ゼミで会話が弾み、楽しいランチタイムであったと思います。

事前準備として、交流会のために各ゼミから代表者2人を選出し、事前打ち合わせをしたこともあり、問題もなくスムーズに

終わることができました。

私たち今井先生の基礎ゼミは、メンバー5人、全員で仲良く和気あいあいと活動しており、大会に向けて練習を数回行いました。それもまた楽しく、良い思い出となりました。

この交流会で各ゼミの仲が深まったことはもちろん、学生、先生方と学科全体が一つになって絆を深めることができ、素晴らしい交流会になりました。

これから4年間、この絆を大切に共に支えあい、成長していきたいと思えます。

04 密度の濃い交流会

義肢装具自立支援学科 杉山 久晃



交流会は、大学付近にあるキャンプ場でバーベキューを行いました。メンバーは、私が所属しているゼミの先生と1~4年生、さらには大学院生の方々も参加してください、とても盛大なバーベキューとなり

ました。

私たちは交流会を企画するのは初めてで、資金・材料の管理など戸惑う点が多々ありましたが、先生や先輩のおかげで無事に開催することができました。また、当初はガチガチに緊張していたのですが、バーベキューが始まってからは徐々に打

ち解けることができ、幅広い年齢層の先輩方と話しをすることができました。3時間ほどの交流会は、時間の流れが早く感じられ、とても密度の濃い時間となりました。

人と人が繋がりを持つことに喜びを感じました。そして、改めて「楽しい」と感じることは大切であると思いました。私は今回、バーベキュー自体はもちろん、企画・買い出しなどの準備段階でも楽しむことができ、非常に良い経験ができました。

今回の交流会は、これから送る大学生活の「軸」を形作るイベントだったと感じられるほど、私の中では楽しく印象深い出来事となりました。

05 スキルアップした臨床技術者を目指す

臨床技術学科 蒲澤 修利



入学後の5月、私は「ゼミ対抗スポーツ大会」にゼミ長として参加しました。まだ学科内で名前を知らない学生もいましたので、スポーツ大会を企画し運営することができるか不安でした。ですが、他のゼミ長の支えもあって大きなトラブルもなくスムーズに進めることができ、学科全体で交流を深められました。

そして、親睦が深まった後に行われた7月の「バーベキュー大会」は、さらに盛り上がり、本当にいい思い出を全員で共有することができました。

これからの約2年間一緒に研究するゼミ仲間と、交流を深めることは、研究の質を上げるために、とても大切なことだと感じています。今後もこのようなイベントを通して、更に交流を深めていきたいと思っています。

リーダーとなって企画し、運営することは大変でしたが、最後に成功を収めた時の充実感や、「お疲れさま！楽しかったよ」と言われた時の達成感は、何物にも変えがたいものがありました。私はリーダーとしての経験は少ないので、これからもゼミ長として頑張っていき、更にスキルアップした臨床技術者を目指したいと思っています。

06 元気がでた学内調理交流会

健康栄養学科 梁取 歩加



私たち健康栄養学科は、大学付近の海辺の森というキャンプ場でデイキャンプを開催する予定でしたが、当日悪天候のため、開学以来、初となる大学内での交流会となりました。

今年は、「被災した際の食事作り」をテーマとし、限られた予算や食材の中で、いかに元気がでる食事を作ることができるか、工夫力が試される交流会となりました。ゼミ学生が協力しあい、あっという間に様々な料理ができあがりました。私達のゼミでは、手早く、栄養をしっかり摂ることのできる、「豚しゃぶ

パスタ、貝たくさんコンソメスープ、牛乳デザート」を作りました。他のゼミでは、ロコモコ丼や夏野菜カレー、お好み焼きなどもありました。みんなで協力して作ることは楽しく、味も格別に美味しかったです。

実際に被災した際にこのような料理が作れるか、分かりませんが、栄養素の補給だけではなく、協力しあって作った料理をみんなと一緒に食べることは「元気の源」になることに気がきました。

これから4年間、この仲間達と共に様々なことを学び、食のプロフェッショナルを目指して頑張っていきたいと思っています。

07 人と人との繋がりを大切に

健康スポーツ学科 大野 果穂



6月15日に健康スポーツ学科の学生・教員交流会において「ソフトバレーボール大会」が開催されました。入学してまだ2ヶ月ほどでしたが、どのゼミも一丸となり、とても盛り上がっていました。

また、健康スポーツ学科内の交流会ということで、バレーに関する技術はもちろん、一つひとつのプレーをうまく繋げているチームワークが素晴らしかったので、試合展開が面白く、非常に白熱していました。

私のゼミは初戦敗退でしたが、ゼミのメンバーの個性が

溢れていた非常に良い試合だったと思います。交流会を通して、今まで話したことがなかった学生や先生方と交流を深めることができました。また、それぞれのゼミ内においては、仲間のことを更に知り、絆を深めることができた会になったと思います。

これから4年間で、多くの人と関わる機会が増えてくると思います。その時には、人と人との繋がりを大切にしていきたいです。そして、大学生活の中で得ることのできる自分の財産にしていきたいです。

08 生ものは適切な管理で、安全に食べられる

看護学科 菊池 里奈



私たちのゼミでは「食中毒」をテーマに活動し、ゼミのメンバー個々で食中毒の原因になる菌や、予防法等、日常生活で役立つ知識を調べました。

一概に食中毒と言っても菌によって症状が異なり、食中毒を予防するためには食品衛生上、気を付けなければならないことがたくさんあることを学びました。

また、実際に生ものを適切に管理する方法を学ぶために、外でバーベキューをしてみようと計画しました。ゼミの

メンバー2人1組になって牛肉、豚肉、鶏肉の食中毒や肉の管理方法などを調べ、実践しました。大学近くのキャンパス施設のある場所で、管理・持参した肉や野菜を焼き、焼肉や焼きそばなどを作りました。

食中毒の調査・研究・実践を通して、多くの学びや気づきを見つけことができ、非常に有意義なゼミ活動となりました。また、機会があったら、このようなバーベキューをみんなで行いたいと思いました。

09 交流会を終えて感じたこと

社会福祉学科 日下 舞子



私たち、社会福祉学科では、6月22日に大学内の第3体育館でスポーツとゲームをする交流会を行いました。

スポーツチームでは、綱引きと、パン食い競争や借り物競走等も取り入れた障害物リレーを行い、とても盛り上がりました。

ゲームでは、〇×クイズとジグソーパズルをしました。〇×クイズでは、ゼミのメンバーがもの知りだということを知り、意外な一面を見つけることができました。中でも、印象に残っている問題は、「充電式扇風機は脱毛器より売れている?〇か×

か」という問題で、最近扇風機がよく売れていると聞くので〇と答えたら、正解は×だったので女性の美に対する関心には驚かされました。ジグソーパズルは、ゼミ内の連携はもちろんのこと、ゼミ同士がピースを協働・連携してパズルの完成を目指すもので、「連携」の大切さを楽しみながら学ぶことができました。社会福祉学科にはたくさんの学生がいますが、4年間一緒に勉強する仲間なので、これからは様々な活動を通して、自主的に多くの人と交流を深め、充実した大学生活を送りたいと思います。

10 学生・教員交流会を終えて

医療情報管理学科 笠原 カンナ



5月18日、私たち医療情報管理学科ではゼミ対抗でドッジボール、リレー大会を行いました。

私は、基礎ゼミ交流会の実行委員として、交流会の内容を考え、当日は進行役として学科をまとめました。まだ入学したばかりで話したことのない人たちと共に実行委員をすることは、意見もまとまらずとても大変なことでした。

ドッジボールを行うということに対して賛否両論もありましたが、当日は先生、学生共にとても良い笑顔で楽しんで

いるようでした。

リレーでは、走るだけでは物足りないという意見が出て、車椅子や三人四脚などを取り入れました。そのため、見応えだけでなくやり応えがあり、非常に盛り上がりました。

医療情報管理学科は、医療系の知識だけを身に付けるのではなく、経営をはじめとした様々な知識を身に付けていかなければなりません。夢の実現に向けて、この交流会で学科内、ゼミ間で深めた絆をもとに、これからもお互いに良い刺激を与え、協力し合いながら大学生活を送ってみたいと思います。

サッカー部

2005年度に発足した男子チームは、2008、2009年度と2年連続で全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)出場を果たしました。今年度からは、田中コーチ(元アルビレックス新潟)を中心として、チーム編成・強化に取り組んでいます。

女子部員6名(川村・小原・斉藤・山崎・中村・児玉)は、アルビレックス新潟レディースに所属し、「なでしこリーグ」でプレーしています。川村が日本代表として「BICENTENIAL WOMAN'S CUP 2010(チリ)」優勝。小原・山崎がU-19日本代表として「AFC U-19 女子選手権2009(中国)」に優勝し、U-20女子ワールドカップ出場権獲得に貢献しました。小原は、



U-20日本代表として「FIFA U-20 女子ワールドカップ2010(ドイツ)」にも出場しました。

男子・女子部員ともに、常に「向上心」を持ち、しっかりと練習に取り組んでいます。男子・女子部員ともに、常に「向上心」を持ち、しっかりと練習に取り組んでいます。男子・女子部員ともに、常に「向上心」を持ち、しっかりと練習に取り組んでいます。

■後期活動計画

10月	北信越大学サッカーリーグ
11月	北信越大学サッカーリーグ、新潟県大学・高専秋季トーナメント
12月	全日本大学サッカー選手権、新潟県大学・高専秋季トーナメント
1月	全日本大学サッカー選手権、日本視覚障害者サッカー選手権大会
2月	通常練習(体育館・トレーニングセンター)
3月	通常練習(アルビレッジ)、春季強化遠征(全国大学対抗フェスティバル)

※女子部員の活動については、アルビレックス新潟オフィシャルサイトをご覧ください。

男子バスケットボール部

2005年度に強化クラブとして発足した男子バスケットボール部は、発足当初から県内外のバスケットボール関係者及びバスケットボールファンに注目され、各種大会で優秀な成績を収めてきました。

男子バスケットボール部は、2008年度の北信越大学選手権で全勝初優勝、インカレ初出場以来、残念ながらあと1歩のところまで、インカレ出場を逃しています。今年こそ、上級生の精神的成長と、190cmの大型新入生2人を含む下級生に期待し、インカレ出場、上位入賞を目指します。



また、「よき人づくり」を理念に掲げ、競技力の向上とともに、バスケットボールを通じて自ら挑戦する意欲を有し、明るく素直で、他人に誠実に対応できる人間性豊かな人づくりを目指します。

■後期活動計画

9月	東北遠征強化試合、北陸選手権、甲信越大学バスケットボール選手権大会
10月	新潟県選手権大会、北信越大学バスケットボール選手権大会(インカレ予選)
11月	北信越総合選手権、全日本学生選手権(インカレ)
12月	新潟県大学選手権
1月	全日本総合選手権
3月	春季強化合宿、関東遠征

女子バスケットボール部

女子バスケットボール部は、2011年度の北信越大学春季リーグ戦で4年連続となる1部優勝を果たしました。残念ながら昨年の北信越大学インカレ予選では4連覇を達成することはできませんでしたが、6年連続インカレへの出場を決めました。今年度もインカレ出場7年連続を目標に部員一堂頑張っております。

女子バスケットボール部の活動目標は、「人間形成」です。部活動を通じて人間性・社会性を磨き、厳しい社会で一人の人間として生きていける「資質を



備える場」としてとらえています。

20名以上の部員と、恵まれた施設の中で、活気に溢れ、元気に練習に取り組んでおります。部員達の弛みない努力にご支援をお願いいたします。

■後期活動計画

9月	北陸選手権、甲信越大学選手権大会
10月	新潟県選手権大会、北信越大学選手権大会(インカレブロック予選)
11月	全日本大学選手権(インカレ)
12月	新潟県大学選手権
2月	24年度へのシーズンオフトレーニング開始
3月	春休み強化合宿

水泳部

水泳部は、創部6年目となった昨年度、全日本インカレにおいて、白野友梨奈が50m自由形7位入賞、奈良梨央が100m背泳ぎ6位入賞。さらに、国民体育大会では、奈良梨央が100m背泳ぎで4位入賞を果たすなど、全国大会で複数の入賞を果たしてきました。

また、今年度から、新潟県内の全ての大学が関東支部から中部支部へ移行することになり、7月に行なわれた中部学生選手権に出場し、男女とも総合Aバック2位。男女揃って全日本インカレの団体出場権を獲得することができました。



これからも本学の強化クラブとしてのプライドを持ち、日々精進していきたいと思っておりますので、応援よろしく申し上げます。

日々の活動報告を以下で紹介していますので、是非ご覧ください。

「新潟医療福祉大学水泳部通信」 <http://nuhw.blog-niigata.net/swim/>

■後期活動計画

9月	国民体育大会、日本学生選手権
11月	FINA 競泳ワールドカップ東京2011、新潟水泳協会親善大会
12月	関東学生ウィンターカップ大会、年末強化練習
1月	長岡新春大会
2月	新潟県JO予選会、日本選手権(25m)
3月	関東学生冬季公認大会、春季強化合宿

陸上競技部

陸上競技部は、今年度25人の新入生を迎え、現在72名で活動しています。今年度の北信越インカレでは、念願の総合優勝(男子)を果たしました。個人では、昨年度の全日本インカレ5位入賞の土田祥太(4年)をはじめ男子3名、女子3名が優勝し、全日本インカレ(9月10~12日)への出場権を得ました。桑野沙紀(100mH)、小林梨奈(やり投)、佐藤翔(ハンマー投)ら3・4年生が活躍する一方、山崎勇哉(200m)、大野果歩(円盤投)ら1年生が多くの種目で入賞するなど、ルーキーの



活躍が目立ちました。

秋からは本格的なロード・駅伝シーズンに突入します。長距離ブロックは、中澤翔(院1年)、牛木陽一(4年)、堀内隼子(院1年)らを中心に、全日本大学駅伝予選会(9月23日)突破に向け、日々の練習に励んでいます。

陸上競技部HP <http://www.nuhw-tfc.net/>

■後期活動計画

10月	北信越学生陸上競技選手権、出雲駅伝、全日本大学女子駅伝(仙台)第3回 NUHW 競技会(予定)
11月	全日本大学駅伝(熱田神宮~伊勢神宮)、第4回 NUHW 競技会(予定)
3月	全日本学生ハーフマラソン、全日本女子学生ハーフマラソン

医療福祉施設 求人説明会 開催

NEWS 01

8月26日(金)、本学キャンパスにて「医療福祉施設 求人説明会」が開催されました。

この説明会は、本学就職センターが就職支援の一環として毎年実施しているもので、保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職の採用を検討している医療福祉施設から73施設138名の採用担当者様にお越し頂きました。

終了後、採用担当者からは「真剣なまなざしが気持ちよく、好印象だった」「就職について明確な方向性を持っている学生さんが頼もしかった」(本学アンケートより)と、好評を頂くことができました。

また、参加した学生からは「特に遠方の病院は、見学に行くことも大

変なので直接話を聞けて良かった」(本学アンケートより)など多数の意見がありました。多くの施設・採用担当者様にお越し頂き、あらためて保健・医療・福祉・スポーツ分野の専門職へのニーズの高さを実感すると共に、有意義な機会となったようです。

本学では今後もこうした就職支援を積極的に行い、学生の夢の実現をサポートしていきます。



本学最大のイベント! 「オープンキャンパス2011」が行われました!

NEWS 02

7月16日(土)、8月6日(土)7日(日)、9月3日(土)、「オープンキャンパス2011」が開催されました。山本 正治学長挨拶からはじまったオープニングプログラムでは、恒例の在学生へのインタビューが行われ、参加者からは在学生の生の声が聞けるとあって大盛況でした。

また、全10学科による「学科説明会」をはじめ、フリープログラムでは、本学の特色や入試について説明する「大学概要・入試概要説明会」、「教員・在学生による個別相談」や「施設見学ツアー」そして、各学科の学びをより理解していただくための様々な「体験プログラム」が実施されました。

特に、オープンキャンパスの醍醐味!40種類以上にも及ぶ体験プログラムでは、参加者が希望する学科のプログラムはもちろん、興味のある

複数学科に足を運んでいただき、総合大学ならではの魅力を体験していただくことができたようです。

また、多くの学生スタッフとの交流を通じて、授業の様子やサークル活動についてなど、新潟医療福祉大学でのキャンパスライフをより身近に知っていただくことができました。

本年度のオープンキャンパスは、これですべて終了となりますが、10月以降も様々なイベントを実施いたしますので、機会があれば是非一度、新潟医療福祉大学まで足をお運びください。



第11回新潟医療福祉学会 学術集会のご案内

NEWS 03

今年度の学術集会は、大会テーマを「保健・医療・福祉の連携」とし、研究発表や専門セッションなどのプログラムを用意しています。

参加は無料です。多数の方々のご来場をお待ちしています。

第11回 新潟医療福祉学会学術集会

日時：平成23年10月22日(土)
会場：新潟医療福祉大学 大講堂
大会長：新潟医療福祉大学 医療技術学部言語聴覚学科 学科長 糟谷政代

プログラム(予定)： 9:30~開場(受付開始)
10:00~会頭挨拶
10:15~一般演題
(口演セッション及びポスターセッション)
12:15~新潟医療福祉学会総会
13:30~シンポジウム
(高次脳機能障害支援：新潟における展開)
16:30~閉会

平成24年度 入学選考試験のご案内

NEWS 04

本学では、個性を活かすことのできる様々な試験区分を設けています。それぞれの特色を理解し、自分にあった試験区分を選択し、受験に臨んでください。

保健・医療・福祉・スポーツのスペシャリストを目指す、意欲溢れる皆さんからの出願をお待ちしています。

■募集学科・募集人員(1年次)

理学療法学科	80名	健康栄養学科	40名
作業療法学科	40名	健康スポーツ学科	100名
言語聴覚学科	40名	看護学科	80名
義肢装具自立支援学科	40名	社会福祉学科	120名
臨床技術学科	80名	医療情報管理学科	80名

■入学試験日程

入試区分	学 科	出願期間	試験日
AO入試	全学科	受付終了	第1次 9/10(出) 第2次10/15(出)
推薦入試	公募推薦(前期)	全学科	10/24(月)~11/2(水) 11/12(土)
	公募推薦(後期)	義肢装具自立支援学科 医療情報管理学科	12/1(木)~12/13(火) 12/17(土)
	指定校推薦	全学科	10/24(月)~11/2(水) 11/12(土)
	スポーツ推薦	健康スポーツ学科	前期10/24(月)~11/2(水) 後期12/1(木)~12/13(火) 前期11/12(土) 後期12/17(土)
	特別推薦	理学療法学科	10/24(月)~11/2(水) 11/12(土)
社会人等特別入試	全学科	10/24(月)~11/2(水) 11/12(土)	
センター利用入試(前期)	全学科	1/5(木)~1/23(月)	
センター利用入試(後期)	理学療法学科 健康スポーツ学科 臨床技術学科 看護学科 健康栄養学科	2/6(月)~2/17(金)	1/14(土)・15(日)
一般入試(前期)	全学科	1/5(木)~1/23(月)	2/3(金)
一般入試(後期)	全学科	2/6(月)~2/17(金)	2/29(水)
3年次編入試験	①健康スポーツ学科* ②看護学科	①9/28(水)~10/4(火) ②8/22(月)~8/31(水)	①10/15(土) ②9/10(土)

*出願前にエントリーが必要となります。

学友会

第11回 伍桃祭(大学祭)案内

今年の
テーマ

「make our day」

～みんなで楽しい1日を過ごそう～

今年3月11日、日本に歴史的な大地震が起こり、甚大な被害をもたらし、多くの人たちが傷つきました。そんな中、私たちは、復興の力となるものに「笑顔」「楽しいと思う気持ち」「誰かを想う気持ち」等があると考えました。

第11回目となる今年のテーマは、「～みんなで楽しい1日を過ごそう～」という意味の「make our day」にしました。伍桃祭という空間の中で、学生、教職員、地域の皆さんをはじめとし、皆さんで一体となり、それぞれが伍桃祭を楽しむ想いを共有して、最高に盛り上がる1日にしていきたいという願いが込められています。

さらに今年の伍桃祭では、他大学との交流会やスタンプラリー、地元小中学校吹奏楽の演奏など地域の方々が参加できるイベントが盛り沢山です。

その他にも多くの出店が立ち並び、同窓会や生涯学習センター運営委員主催の講演会なども開催されます。昨年に引き続き「eco」にも率先して取り組んでいきます。伍桃祭をより地域密着型のお祭りにし、地域との交流のきっかけになるようにしていきたいと思えます。

10月9・10日、新潟医療福祉大学でたくさんの方のご来場をお待ちしております。

第11回伍桃祭実行委員長 濱田 祐輔

イベント案内

- 「大橋トリオ」によるライブ
- 新潟県出身のゲストによるライブパフォーマンス
- 部活・サークルによる発表
- 模擬店
- ビンゴ大会
- Mr.&Ms.発表
- 学科対抗パフォーマンス大会
- フリーマーケット
- 他大学交流

このほかにも交流イベントが満載です。ぜひお越しください。

10/9日
10月祝

大学祭ホームページ案内

<https://sites.google.com/site/gotousai2011>



大学院

各種イベントのご案内

この度、保健・医療・福祉・スポーツ分野の関係者の方々を対象に、大学院主催の各種イベントを行うことになりました。本学大学院の持つ、専門的かつ高度な知識に触れることのできる良い機会となります。多くの方からのご参加をお待ちしております。

※いずれのイベントもお申し込み方法・お問い合わせ等詳細情報については本学ホームページ等でご案内いたしますので、そちらをご覧ください。もしくは本学入試事務室宛にお問い合わせください。

★新潟医療福祉大学大学院 専門職のための研究スキル講座 ～文献検索(中級編)から学会発表まで～

11/3
10:00～

データはあるんだけどそれをどう活用すればいいかわからない…、いずれは学会発表してみたいんだけど…等、現場での研究スキルアップを目指す方に、文献検索から研究方法等についてわかりやすくレクチャーします。申込/10月20日(木)までに本学にお申し込みください。(定員あり)

★「オープンクラスウィーク ～院生体験してみよう!～」

11/7～11/19

左記期間内に開講されている実際の大学院の授業を公開します。大学院生体験をしてみたい方にぜひオススメです。申込/10月31日(月)までに本学にお申し込みください。

★大学院説明会

11/30
18:30～

大学院の全専攻・分野を対象に、大学院の学びやすい制度を中心に説明します。希望者には担当教員との個別相談時間も設けます。申込/11月25日(金)までに本学にお申し込みください。

新潟医療福祉大学

〒950-3198 新潟市北区島見町1398番地
TEL025-257-4455(代) FAX025-257-4456
URL <http://www.nuhw.ac.jp/>
携帯サイト <http://www.nuhw.jp/m/>
【入試事務室】TEL025-257-4459
E-mail nyuusi@nuhw.ac.jp

誌名「QOLサポーター新潟」の由来

世界一の長寿国となった我が国では、「いのちの長さ」を伸ばすことと同様に、「生活の質、Quality of Life, QOL」を豊かにすることが、益々重要になっております。新潟医療福祉大学では障害者、高齢者などのQOLを高くすることを支援する(サポーター)人材を育成します。このような人材を「QOLサポーター」と名づけました。そして皆様にも本学の内容、活動をお知らせする広報誌を「QOLサポーター新潟」としました。

